

地学協働元年

※PJ = プロジェクト

令和6年度が始まりました。

いよいよ本年度より地域学校協働活動が動き始めます。

『地学協働（地域学校協働の略）元年』です。とはいえ、地域の方だけでなく保護者にとっても「地域学校協働本部って何するの?」「地学協働って何?」というのが正直なところでしょう。

そこで、今回はQ&A形式で地域学校協働本部について紹介したいと思います。

PTAみたいなもの?

PTAとは違います。会長もいなければ役員もいません。係もなければお手伝いな仕事もありません。

誰がやるの?

地域の方に「地域学校協働活動推進員（以下、推進員）」という役を担ってもらいます。

それは誰?

できるだけ日中に活動ができて、日頃から子ども・学校・地域などと接点がある方が望ましいです。これから選考して、教育委員会が委嘱をします。

その人は何をやるの?

「学校のやりたい」と「地域のやりたい」をつなげたり、コーディネートします。学校と地域の接着剤、学校と地域の磁石みたいな役割の方です。

交通安全とかする人?

地域学校協働本部や推進員が交通安全指導で道路に立つわけではないかもしれません。それをやりたい、やってもいい方と学校をつなげ、コーディネートします。

具体的な例を教えてください?

小学校の音楽の授業
担任の先生が

「本物の太鼓に出会わせたい」

地域に相談

追分いぶき太鼓
とつなげる

※日程調整、太鼓借用
(3カ所から)、太鼓
運搬/返却

追分いぶき太鼓

「地元の子どもたちに太鼓を知ってもらおう機会になる」

授業をより良くしたい学校と子どもたちに機会を作りたい地域が繋がった昨年度の実例です。

他に事例はある?

早来学園のヤギ飼育は、①ヤギ小屋の資材を提供してくれた方、②ヤギ飼育牧柵を設置してくれた地域NPO、③ヤギをレンタルしてくれた地域の方などがつながり、実現しました。地域の高齢者や子ども園と一緒に作った花壇なども地学協働の一例です。

何で学校がやらないの?

転勤で来た先生は地域にどんな方や特色があるか知りません。また、地域とつながるには手間と時間が必要で、その余裕が今の学校にはないからです。

地域がやりたいこともやらせてもらえるの?

学校のやりたい、やってもいいと合致すれば可能です。逆に地域側も自分たちのやりたい、やってもいいと合致しなければ協力しなくてもかまいません。お互いにとって良いことを取り組んでいきます。